

平成 26 年度 生駒市行政改革推進委員会

第 2 回 会議録

開催日時 平成 26 年 7 月 7 日（金） 午前 10 時～

開催場所 生駒市役所 3 階 302 会議室

出席者

（委 員） 森委員長、松山副委員長、藤堂委員、松尾委員、岡本委員、奥田委員、楠委員、松本委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課課長補佐、島田企画政策課係員、片山企画政策課係員

（傍聴者） なし

欠席者 なし

1 開会

2 案件

(1) 前期行動計画の取組状況の確認について

（森委員長） 6月末締切で各委員に前期行動計画の取組状況の確認について、意見を提出していただいた。委員会の意見としてこのままの形で各課に提出するのか。

（事務局） この資料をもとに議論して、総合評価案について判定していただきたい。そして委員会のコメントをいただき答申のための資料に盛り込みたい。

（森委員長） どこまで整理すれば良いのか。

（事務局） 本日は総合評価とコメントをまとめていただけたら、次回の委員会で報告書の形式で提示する。

（岡本委員） 案件 2 について先に議論するのはどうか。

（森委員長） 確かに案件 2 に関しては、前回の確認なので先にする方がいように思う。よろしいか。

（各委員） はい。

(2) 「補助金等の見直しに関する提言書【平成 25 年度】」に対する平成 26 年度予算での対応について

（森委員長） 前回出た意見をもとに事務局でコメントを書いていた。補助金

見直し金額が少ない理由と見直しが成功した事例についての記述が必要という意見が出ていた。見直し金額が少ない理由に関しては、削減できた補助金があった反面、高齢者交通費助成金が対象者の増加に伴い、大幅に増額しているからと記述がある。そして、見直しが成功した事例に関しては、行政の努力と市民の理解・協力があったからであると記述されている。この記述に関しては、もう少し深く書いてもいいように思うが、意見はあるか。

- (岡本委員) 資料に誤字がある。6行目の49, 260千円は449, 260千円の間違い。
- (事務局) 修正します。
- (奥田委員) そもそも予算ベースになっているが、こういった行政の資料においては、一般的には予算ベースでの比較になっているのか。市民の方々が予算と実績の関連性を理解しているか心配である。
- (森委員長) 一般的に予算ベースにしている自治体が多い。予算と実績に乖離があるならその旨を記述したほうがいいが、無いなら予算ベースで問題無いように思う。実績を入れてしまうと見づらくなってしまわないか。
- (楠委員) 平成25年度予算に対して平成26年度予算でどれだけ削減できたかを見るためには、この表のままでいいように思う。実績を入れるとコメントが変わってきてしまう。
- (松山副委員長) 廃止を9件提言したのに対して、実際に廃止されたものは2件で、予算の削減幅もごくわずかである。何のために行政改革推進委員会で時間をかけて補助金削減に向けて議論したのか疑問に思う。提言の翌年度に全ての意見を反映されることは難しいと思うが、市の意思として2、3年先の対応を見据えたコメントを記述してほしい。
- (岡本委員) 中小企業債務保証料補給金、中小企業融資制度利子補給金に関して、担当課に照会することだったが、担当課はどのような見解だったのか。
- (事務局) 制度の内容について照会した。融資制度利子補給金は自治体が信用保証協会と連携して、中小企業に対して援助を行うという制度。中小企業が運転資金を借りる場合、1,000万円を借りて、7年間かけて返済するケースが多い。元金均等返済方式をとっているため、返済当初は元金が多く利子負担も大きくなるが、返済が進むにつれて元金が減り利子負担も小さくなる。したがって、利子補給金の金額も年が経つにつれて少なくなるため、全体としてみると、一件あたりの金額は少なくなってしまう。債務保証料補給金に関しては貸付を受ける際に掛かる保証料の一部を市が補給するもの。二つの補給金は中小企業にとって、特に返済初期の負担軽減の役に立っているとの見解だった。

- (松山副委員長) あまり役に立っていないように思う。中小企業が20万円補助金をもらってもあまり意味がない。すぐに廃止すべきということではないが2、3年後の方向性を示してほしい。特に、近隣市町村で行っているから行うという横並び意識はやめてもらいたい。
- (岡本委員) 予算と比べて実績が少ないのは、申込みが少ないということだと思う。
- (森委員長) 集計として実績を記載するかについて意見はあるか。
- (事務局) 予算と実績の差について集計した結果、全体として平成25年度の実績は1割ほど予算より少なくなっている。事務局の意見としては、実績を記載せずに予算ベースで見て、どの程度削減できたかを検証するようにしてほしい。
- (森委員長) 予算は自治体にとって、ここまではお金を出すという意思表示なので、こういった資料においては決算が目的ではない。この表に実績を入れると予算と実績の違いなど、余分な説明文が必要になり分かりづらくなる。実績の記載はせずに、予算だけでいいのではないか。
- (各委員) はい。
- (森委員長) コメント内容に関して、関係団体と協議中である旨など、見直しできない理由や事情を記述した方がいいのではないか。
- (事務局) あくまでも委員会としての意見なので、市の意見は記載できない。しかし、削減すべきという9件の提言に対して2件の削減に止まったという記述が抜けている。委員会の意見として、担当課との間に食い違いがある旨は記載したい。
- (岡本委員) 委員会と担当課の間に齟齬があることは記述してほしい。委員会の指摘に対して担当課がコメントを変更したところは無いはずである。見直しに向けて努力したことの記述がないと、委員会が言いっ放しになっているように捉えられてしまう。
- (森委員長) それぞれが努力している旨の記述は必要だと思う。
- (事務局) 最終的に資料2と個別の提言に対しての対応状況を公開したい。資料2のコメントに関しては、修正を加えて次回の会議で確認していただきたい。

(1) 前期行動計画の取組状況の確認について

- (森委員長) 委員会としての意見をまとめていきたい。違う視点からの意見は両方残していきたいと思う。まず、全般に関しての意見を5名からいただいている。各項目に関する意見はその都度触れていく。
- (事務局) まず個々の項目について意見をまとめてから、全体について見ていただきたい。できれば今日は、総合評価の評価区分を確定していただきたい。

(森委員長) 分かりました。総合評価とそれに関わる個別の項目について見ていきたいと思う。

1. 行政運営の状況の分かりやすい情報提供・効果的な情報共有【重点】

(森委員長) 意見はあるか。総合評価に関しては松本委員と楠委員が意見を出している。

(松本委員) ホームページのアクセス数を評価しても意味があるのか疑問に思う。数値目標の設定根拠もよく分からない。

(事務局) ホームページの管理・運用の成果を見るためにアクセス数を用いた。昨年と比べてどれくらい増えたかを見ている。

(松本委員) アンケートを実施する方法もあるのではないか。アクセス数の増加はホームページがより良くなったというより、市自体への関心の表れのように思う。

(岡本委員) 単純に目標の94.1%達成しているのになぜC評価なのか。

(事務局) 本資料の総合評価と個別の取組状況の評価では違う判断基準を用いている。

(森委員長) 楠委員から総合評価に関してB評価でいいのではないかという意見があるが。

(楠委員) 企業のHPも参考にして見やすいHPを作してほしい。期待もこめてB評価でもいいのではないかと思った。

(岡本委員) 数値目標をベースに評価するのであれば、情報公開の満足度調査が未実施ということで評価できないのではないか。

(事務局) 市民満足度調査は2年に1回の実施であり、平成25年度は実施していないため、今回は他の要素で判断して評価してほしい。

(岡本委員) 「未実施」という記載ではない方が良いのではないか。

(事務局) 次回は27年に実施予定なので、実施時期を記載しておく。

(森委員長) 総合評価の評価区分を確認しておく。A評価(高い成果が得られた)、B評価(予定通りの成果が得られた)、C評価(一定の成果が得られた)、D評価(やや不十分な成果にとどまった)、E評価(成果は不十分であった)となっている。これを基に総合評価を決めていく。この取組項目に関してはB評価でいいように思う。よろしいか。

(各委員) はい。

2. 情報共有の充実に向けたツールの活用

(森委員長) 意見はあるか。C評価で矛盾はないと思う。

(各委員) 特になし。

3. 市民からの政策提案制度の導入【重点】

- (森 委 員 長) 総合評価に対して4件の意見が出ている。
- (事 務 局) 数値目標だけでなく、取組目標も踏まえて総合評価としている。事務局案ではC評価としている。
- (松 本 委 員) 政策提案は簡単にできるものではない。綿密な準備が必要なので2件の提案があったことは評価できる。
- (森 委 員 長) 各委員の意見を踏まえるとC評価が妥当だと思う。

4. 市民、NPO など協働のパートナーの支援【重点】

- (森 委 員 長) B評価でもいいのではないかという意見があるが。
- (事 務 局) 部の仕事目標としては、B評価になるが、数値目標の達成度を見ると総合評価はC評価だと判断した。
- (松 尾 委 員) 制度登録団体数50団体という目標が適切かどうか疑問である。登録されている30団体の分野は多岐にわたっており、各分野への働きかけ等、頑張っていることはよく分かる。しかし、この取組に関して、一般の市民が知らないことが問題ではないか。
- (岡 本 委 員) 確かに、ホームページでPR動画を公開しているが、再生回数がかかなり少ないように思う。
- (松山副委員長) 頑張って取組んでいることは分かるが、B評価の判断基準は「予定通りの成果が得られた」となっており、そこまでは達していないように思う。
- (森 委 員 長) 「一定の評価が得られた」ということでC評価が妥当だと思う。

5. 参画と協働のまちづくりを進めるための指針の策定・運用【重点】

- (森 委 員 長) 意見はあるか。
- (岡 本 委 員) 協働・参画型事業数の調査について、自治基本条例の検証と合わせて実施する方が効果的であるため本年度の実施を見送ったとあるが、これはどういう意味なのか。
- (事 務 局) 自治基本条例の項目の中に含まれているため。調査を見送った理由としては、市民自治条例の検証と合わせて実施する方が効果的であるからとのこと。
- (藤 堂 委 員) C評価で妥当だと思うが、調査を先送りした理由がよく理解できない。担当課が、どの事業が協働と参画に関わる事業なのか把握さえしていれば、すぐに調査を実施できるはず。協働と参画に対する意識が庁内で徹底されているのか疑問に思う。
- (森 委 員 長) 模索している状況なので、達成かどうかを判断する段階ではないよう

に思う。C評価で良いか。

(各委員) はい。

6. 市民自治協議会の導入に向けた取組【重点】

(森委員長) 意見はあるか。どこを重点的に見て考えるかが重要である。

(岡本委員) あまり進んでいないという印象を持っている。

(松山副委員長) 市民に浸透していないのではないか。

(松尾委員) 考え方はいいが、どこから進めるかを明確にしなければならない。自治体から働きかけても市が後押ししてくれないことがある。補助金の予算があっても後払いになっているような制度的な問題もある。現場の意思が反映されない机上の空論になってしまっているのではないか。

(森委員長) 意見を伺うと、D評価が妥当だと思う。よろしいか。

(各委員) はい。

7. 総合計画に基づく施策・事業の進行管理【重点】

(森委員長) 意見はあるか。

(岡本委員) 市民満足度調査が未実施とあるが、いつ実施されるのか。

(事務局) 平成27年5月に実施を予定している。

(岡本委員) 総合計画に掲げる「目指す値」の達成状況に平成24年度末の時点ですでに43.7%達成済みとあるが、25年度末では何%達成できたのか。

(事務局) 25年度末での達成状況に関しては、現時点では分からない。部の仕事目標から引用しており、3月末時点で評価しなければならないので、24年度の評価しか出すことができなかった。25年度の評価に関しては7、8月頃に確定する予定である。

(森委員長) 一定の成果が得られたということでC評価が妥当だと思う。

8. 行政の守備範囲の検証と事務事業の精査・改善

(森委員長) 意見はあるか。

(松山副委員長) 取組項目の重要さと個々の取組にギャップがあるように思う。

(岡本委員) 事務事業の見直しに関しては、達成状況に事後検証を行い、改善すべき課題とその対応時期を定めたところがあるが、平成26年3月までに達成できたこととできなかったことのカウントはしているか。

(事務局) 目標自体にずれがあるかもしれないが、継続しているという認識である。

(松尾委員) 事務事業の見直しという項目に、横の連携をスムーズに行うことは入らないのか。

- (事務局) 直接的には入らないが、効率化という広い括りでは該当する。この取組項目での事務事業の見直しとしては、市が行っている業務が本当に必要なのか、民間委託できる業務なのではないかという着眼点である。
- (森委員長) 評価がしづらい項目ではあるが、総合評価として意見はあるか。
- (松山副委員長) 設定されている目標が低いように感じるので、C評価でいいのではないか。
- (藤堂委員) この項目に該当するか分からないが、業務の効率化ということであると、自治会としても年間通じて市役所との書類のやり取りが大変多い。デジタル化できるのであれば双方にとって煩雑さが改善されるので検討してほしい。
- (森委員長) 業務の改善について調査等はあるのか。
- (事務局) 基本的には個々の担当課で検討している。ニュアンスが違うかもしれないが、職員提案制度もあり、各課の職員が部局以外の業務に関しても改善策等を提案できる制度がある。市民の方からはききみみポストを通じて直接意見を募集している。
- (森委員長) この取組項目に関しては、C評価で妥当だと思う。

9. 外部監査制度の導入の検討

- (森委員長) 意見はあるか。
- (松山副委員長) 具体的に何も行っていないのならば、E評価が妥当ではないか。
- (森委員長) 検討はしていると思うが、成果が出たとは言えない。
- (松本委員) 国が監査制度改革を行うまで、市としては何もできないのか。
- (岡本委員) 市独自の監査制度を作ることも可能だと思う。国の動向を注視しているだけでなく、独自の制度構築も視野に入れてほしい。
- (事務局) 市としては、独自では作らずに国の改革を見て決めるという方針である。
- (森委員長) 検討していることも考慮するとD評価でも良いように思うが意見はあるか。
- (岡本委員) 担当課の言い分も分かるが、他に方法もあるので評価区分としてはE評価が妥当だと思う。
- (森委員長) 市の方針として外部監査制度を導入するというのであれば、この取組状況だとE評価が妥当かもしれない。よろしいか。
- (各委員) はい。

10. 民間委託の範囲の拡充など民間活力のさらなる活用【重点】

- (森委員長) 意見はあるか。D評価となっているがこれは妥当だと思う。意見はあ

るか。

(各委員) 特になし。

11. 指定管理者制度の導入施設拡充と効果的運用

(森委員長) 意見はあるか。生涯学習施設の利用者数について松本委員から意見が出ている。

(松本委員) 実際の利用者が年度当初の利用者目標より24万人も多いのはなぜか。

(事務局) たけまるホールの耐震化工事が予定されていたので、その期間分の利用者目標を下げている。しかし、実際は他の施設に利用者が流れたこともあり利用者が減らなかったことから大きなギャップができた。

(森委員長) B評価が妥当なのではないか。

12. 既存公共施設の長寿命化に向けた中長期的な計画策定【重点】

(森委員長) 事務局案どおりB評価で妥当だと思うが意見はあるか。

(各委員) 特になし。

13. 環境マネジメントシステムの推進による公共施設の省エネルギー化【重点】

(森委員長) B評価ということだが、意見はあるか。

(各委員) 特になし。

14. ごみ半減プランの推進【重点】

(森委員長) B評価ということだが意見はあるか。

(松尾委員) 自治会で職員によるごみの分別等について出前講座をやってもらったが、とても好評だった。市民全体に対して、もっと周知を徹底する必要があると思う。

(森委員長) B評価かC評価のどちらかだと思う。取組状況の評価区分から見るとB評価が妥当のように思えるが、実態としては市民への周知不足等の課題があるように思う。

(岡本委員) ごみ半減トライアルについて、取組が終了したからという理由でB評価になっているように思う。トライアルでの削減は3%台で半減には程遠い結果である。実態から見るとC評価が妥当なのではないか。

(藤堂委員) 市民への周知不足が削減3%に止まった理由ではない。分別の取組がごみの削減に繋がるかという検証の結果である。市が本気で半減に向けて取組むのであれば、違う方策が必要である。その検討の結果、有料化やむなしとの事だった。他市の実績から見ると、有料化によって20%程の削減が見込まれるが、半減には程遠いので、生ごみの再資源化等様々なこと

に取組まなければならない。もちろん市民への周知は必要だが、周知徹底だけで解消される問題ではないように思う。

(森 委 員 長) 市民への浸透、浸透への担当課の努力、実態を踏まえると「一定の成果が得られた」ということでC評価が妥当だと思う。意見はあるか。

(各 委 員) 特になし。

15. 財政計画に基づく経常収支比率等の指標管理【重点】

(森 委 員 長) 意見はあるか。

(岡 本 委 員) 経常収支比率について今年度の目標水準と数値目標の値が違っているのはなぜか。

(事 務 局) 部の仕事目標については毎年度目標設定しているが、前期行動計画の数値目標は平成23年度末に24年度、25年度の2年分を設定したために差が生じている。

(森 委 員 長) 記述方法は改善したほうが良いが、総合評価はB評価で良いか。

(各 委 員) はい。

16. 中長期的な税財源等の安定に向けた重点投資【重点】

(森 委 員 長) C評価からB評価にできないかという意見があるが。

(岡 本 委 員) 子育て施策に関しては、「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」で7位に入るなど外部からも高い評価を得ているのでB評価が良いように思う。

(森 委 員 長) B評価で良いか。

(各 委 員) はい。

17. 市税の収納対策の推進

(森 委 員 長) 意見はあるか。

(松 山 副 委 員 長) 滞納分の回収率が低いことからB評価が妥当ではないか。

(楠 委 員) 数値的には全て上回っている。さらに、C評価にしている市県民税徴収率に関しても横ばいと判断できるので、決して悪くない。このことから、総合的に見てA評価でも良いように思う。

(森 委 員 長) 徴収率が高い反面、厳しく見ると滞納もかなりある。なにを重要視するかにもよるが、A評価にすると現状で満足してしまう恐れもあるのではないか。

(岡 本 委 員) B評価ということなら、A評価に向けて何をしなければいけないかをまずと考えるのではないか。

(楠 委 員) 結果に対しては素直に評価して、成果の継続に向けた更なる努力に対して、期待を込めて励ましたほうがやる気が出るのではないか。

(奥 田 委 員) 現時点で取組むことができる施策に関しては、既に取り組んでいるはずである。しかし、新たな施策もこれから出てくると思うので、現時点で A 評価を与えて満足してしまうのはよくないように思う。

(森 委 員 長) それぞれの意見が出たが、改善に繋げてほしいという思いは共通している。その思いを確実に伝えるためには、B 評価が妥当だと思う。よろしいか。

(各 委 員) はい。

18. 行政需要等を踏まえた職員数の適正管理【重点】

(森 委 員 長) 意見はあるか。

(奥 田 委 員) 定員の適正化について、未達成理由に目標達成年度を延ばしたとあるので、評価が変わってくるのではないか。

(森 委 員 長) 達成しているとの見方もできる。B 評価で良いか。

(各 委 員) はい。

19. 人件費の総額管理と能力・実績を重視した給与制度の構築【重点】

(森 委 員 長) 事務局案どおり B 評価で良いか。

(各 委 員) はい。

20. 能力と意欲しに応じた柔軟な任用制度の構築

(森 委 員 長) A 評価だが、B 評価の方が妥当という意見が出ている。

(楠 委 員) 制度をスタートしたことは評価できるが、成果に関してはこれからのので、現時点では B 評価が妥当ではないか。

(森 委 員 長) 事務局としては、スタートしたことを評価したのだろうが、成果を重視するならば、B 評価が妥当だと思う。よろしいか。

(各 委 員) はい。

21. 人事評価制度の効果的な運用

(森 委 員 長) A 評価だが、B 評価の方が妥当という意見が出ている。

(岡 本 委 員) 成果をどのように判定するかが難しいのではないか。

(松 本 委 員) 制度を作っただけでは判断できない。

(楠 委 員) 対象の職員に対して、アンケートや面接などでモチベーションのチェックを行うことが効果的だと思う。今回は B 評価にしておいて、来年成果のチェックを行って、良好だと判断できれば、A 評価を与える方がいいのではないか。

(森 委 員 長) このような意見に関しては、報告書を書く際に文章で入れていただき

たい。総合評価については、B評価で良いか。

(各委員) はい。

22. 職員の資質向上・能力開発の推進

(森委員長) 取組に対する成果が分かりにくかった。意見はあるか。

(松本委員) 職員のキャリア育成の視点が足りないように思う。

(森委員長) B評価で良いか。

(各委員) はい。

23. 重点施策を効果的に推進できる組織機構の構築と柔軟な運営【重点】

(森委員長) 意見はあるか。

(松本委員) ワンストップ窓口等を検討してほしい。

(森委員長) B評価だが、市民側からもう少し改善してほしいということならC評価の方がいいと思う。さらに、数値目標のチェックが未実施ということも踏まえるとC評価が妥当だと思う。意見はあるか。

(各委員) 特になし。

24. 現場への権限移譲の促進

(森委員長) 意見はあるか。

(岡本委員) 決裁事項の拡大について、平成25年度当初に達成した目標を再び掲げていることに問題があるのではないか。

(森委員長) 意見を反映すると、D評価が妥当だと思うが意見はあるか。

(松尾委員) なぜ達成済みの目標が記載されているのか。

(事務局) 平成26年からの後期基本計画では削除している。

(奥田委員) 決裁権限の大幅な拡大を行った上で、尚且つ更に拡大できる事項を検討したが新たな事項が見つからなかったのだと思う。D評価は厳しいのではないか。

(松本委員) 職員スキルの向上に関しては、研修会への参加はとても大事なことだが、重要なのはその成果があったのかどうかだと思う。達成状況のコメントからはその成果が見えづらい。

(森委員長) 各委員から指摘されていることも踏まえると、事務局案どおりC評価が妥当だと思う。よろしいか。

(各委員) はい。

3 その他

(事務局) 前回会議で農家区長の活動に関する質問を受けた。担当課に照会し、

資料として農家区長のしごと一覧をまとめた。農家区長は実際に多くの業務を行っており、連絡・調整に関しては農家区長会を通じて行っていることだった。農家区長活動交付金はこれらの業務支援に使われている。

4 閉会

【決定事項】

- ・事務局で「行政改革大綱 前期行動計画 取組状況評価報告書（案）」を作成し、次回会議で報告書を決定する。